

## 「父のこと」

産業開発青年隊同窓会 会長 鈴木 浩明

先日、何気なく使っていないタンスを開けてみると、時代を感じるアルバムを発見しました。

それは、父の若い頃のアルバムでした。

父は昭和9年生まれで現在の富士宮市内房生まれでした。富士宮農業高校の農業土木科を卒業し、村役場に就職し、建設課に配置されたようです。そして水道事業担当になりました。

水道に携わっていた頃の写真もありました。

コメントをしっかりとつけ、写っている人の名前や、内容など詳細に記載をしてあり、自分とちがい、大変几帳面であることがわかりました。

顔もわからない父ですが、写真を残してくれてありがとうございます。

父は私が五歳のとき、弟が1歳になる前に交通事故でなくなりました。父の葬儀のとき、人が大勢訪れるため、私は、楽しくて走り回っていたそうです。

このアルバムは、唯一の記念品ですので大切にしたいと思います。

私の母の父が水道工事を始め、地元企業で初めて芝川町の仕事を落札したときの監督官が父でした。

当時は、芝川町のほうが富士宮市より水道事業が進んでいたらしいです。

工事の縁で母と結ばれ、祖父の会社の番頭として、そして、将来の跡継ぎとして活躍したそうです。

富士宮市の水道部の職員の方もよく父のところに水道のことを聞きにきたそうです。

母と結婚した頃に、建設大学校の水道管布設工事を行いました。

しかし、残念ながら私が5歳のとき、交通事故でなくなりました。

私も祖父、父の血を受け継ぎ、水道の仕事に携わっています。

この写真の時代は、ブラジル班神代組の方々と同じ時代だと思います。

時代風景も懐かしいところもあるのではないのでしょうか。

コロナ禍やロシアの軍事行動など様々な驚くことが起きる時代であり、人類平和や、友愛と団結など、青年隊の綱領にうたわれていることが、本当に問われている時代になりました。そのような状況の中で、日本の高度成長時代に移り変わる時の一場面であり、青年隊の一番脂ののった先輩方が夢を持ち、歩き始めた時代をわたくしの父も歩んだと思います。わたくしの父は33歳で亡くなりましたが、そのDNAは、わたくしの中にもあるはずです。残された時間を精一杯生きていきたいと再確認させていただきました。ありがとうございます。